

# 平成29年度 青少年育成運動活性化研究協議会

平成29年11月8日(水) かでる2・7(札幌市)

## 地域活動、貧困対策、ネット社会、子どもの未来を考える



道内各地における青少年育成運動に取り組んでいる関係者やボランティアの方々を対象として、運動の現状や課題、今後の進め方について共通理解を深め、それぞれの地域における青少年育成活動の活性化を図るために研究協議会を開催しています。当日は、北翔大学の飯田准教授による基調講演と3つの分科会に分かれての研究協議を行いました。

基調  
講演

### 演題「子どもの“こころ”の揺らぎと成長」－大人の役割をもう一度考える－

北翔大学教育文化学部心理カウンセリング学科 准教授 飯田 昭人 氏



#### 子どもとどのように向き合うべきか 大切なのは、「知性」と「感性」のバランス

大学で相談を受ける際、大人からの相談時は、肩書きや経験数に重きを置くことが多いが、子どもからの相談ではそのようなことは聞かれることはない。この人はたくさん勉強してきた人なのか、この人になら相談していいかな、馬鹿にしないで話を聞いてくれそう、など人柄や人間性を重視し、“冷たい頭”と“温かい心”という「知性」と「感性」のバランスが求められてくる。また、相談とは相談者の個々の視点に目を向けることやどうなれば安心できるかという困りごとを要望の把握や確認が大事。

#### 虐待や貧困には、社会環境へのアプローチが重要

スクールカウンセラーをしていた頃、様々な相談を受けた。虐待を受けている子が、家に帰ると義理の父親から体を触られる、親御さんから暴力を受けているケース。また、貧困問題を抱えている子で、お金がなくて友達とファーストフード店にも行けなく、友達も気を使い誘うこともなくなり関係が疎遠となり孤立していくケース。どちらの場合もその子を取り巻く社会環境に目を向けアプローチすることが必要。そして、「あなたのことを見ていますよ」、「あなたの話を聞きたい」などという、サポーター的な役割が求められている。

#### 犯罪件数は減少しているが、性犯罪は潜在化

子どもの犯罪件数は、昭和20年代に比べ10分の1に激減している。しかし、性非行は形が変わり、昔はテレクラや出会い系サイトだったが、現在はtwitterが主流で高校生や中学生など誰でも操作が出来、敷居が下がっている。犯罪件数が統計的に減っていても、性犯罪はあまり減っていない、暗数はある。

#### 不登校の子に言ってはいけない言葉

現在、日本の中学生(約350万人)の内、不登校生徒は、約10万人弱。40人学級だとクラスに1人の割合。

その子達から相談を受けた場合「どうしたら学校に行けるようになるのかな」という言葉は、子どもを苦しめる。親や先生からしたら悪意は全くないのだが、そう言われると教室に入ろうとする足が震える、涙目になる、過呼吸になるなどの症状が出る子が多い。そうではなく、最初にかけたい言葉は「大変な目に遭っているんじゃない?」、「どうすれば安心できるかな?」など、その子が何に困っていて悩んでいるか、子どもの心に寄り添うことが大事。

#### 発達障害的特性は、「色の濃さ薄さ」

発達障害的特性は、「濃さ薄さ」のことで“0”か“100”ではない。“0”的人は恐らくいない。特性があるのかないのかではなく、多いか、少いかということ。

発達障害という医学的診断名は、レッテルを貼ることではなく、理解し手助けすることであり、当然、親の育て方が悪いとか、本人が急いでいるという問題ではない。

例えば、授業中に動き回る子には、堂々と離席できるように用事を与え、離席できる環境を作つてあげるという環境調整により、子どもの困難さが目立たなくなることがある。どうすれば安心して物事に取り組めるかを考えることが必要。

#### 子どもの心の揺らぎに大人はどう対処すべきか

心理的虐待を受けている幼児等は、父親が母親を殴る蹴る等の状況を見ても、「やめて」、「どうして？」は言えるかもしれないが、大抵はお腹が痛くなったり頭が痛くなったりする。年齢の低い子には、きちんと大人が関わることが大事になる。

また、災害や交通事故、犯罪などが地域で起つた際に、多くの子どもに心の傷が出来るが、その時に、我々大人が動搖しが揺れていったら、当然子どもも揺れる。根拠なく大丈夫というのは少し違うかもしれないが、私達が冷静に「大丈夫、心配ないよ。」と子どもに伝えることが大事なことだと思う。

## 分科会

分科会では、各テーマを設けた3つの分科会に分かれ、第1分科会のワールドカフェ方式や、第2・3分科会では、テーマに沿った話題提供者による発表、さらにはグループ討議があり、活発な意見交換や協議が行われました。

各グループ討議では、地域での活動の成果や課題等が話され、他の地域で活動している方々にとって、共感できる部分や活動に反映できる情報があつたりと、今後の育成運動を進める上で実りある場となりました。

#### ●第1分科会 「これから地域活動の在り方」～求められる取組と支援～(ワールドカフェ)

ファシリテーター：木幡 淳史（北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課社会教育・読書推進G主査）

#### ●第2分科会 「子ども達の居場所づくり」～地域で実践する子どもの貧困対策～

話題提供者：隈元 晴子（藤女子大学人間生活学部食物栄養学科講師）

コーディネーター：尾形 行亮（北海道教育庁石狩教育局社会教育主事）

#### ●第3分科会 「ネット社会に生きる子ども達」～スマホの光と影～

話題提供者：中谷 通恵（子どもとメディア北海道副代表兼事務局長（白老町））

コーディネーター：齋藤 伸一（北海道教育庁空知教育局社会教育主事）

